



かしま

ほっと

HOT

ほっと

hot

通信

6月号 Vol.365

令和5年（2023年）6月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人 養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1
2

巻頭特集

新型コロナウイルス感染症
5類感染症移行に伴う変化

5月12日（金）

「看護の日のイベント」開催報告

3

コラム ひんがら目 (192)

『呼吸器患者さんのむずむず脚症候群
かかりつけ医にも相談して下さい』

呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

第14回日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会に参加しました

かしま荘通信



かしまホームに学生が宿泊しています。



か

しま病院は、医学生の地域実習の研
修の場となっており、県内・県外から
月に3名ほどの医学生を受け入れています。

今年の5月より、医学生の宿泊施設とし
て、病院から徒歩5分の場所にある元有料
老人ホーム「かしまホーム」を利用してい

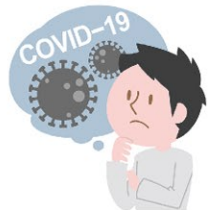
ます。医学生には、住まいも含め地域を学び、
地域医療を考えるひとつのきっかけになるよう想
いを込めています。

かしまホームには、現在、医学生の他に他県
からのインターンの大学生が管理人として宿泊し
ています。次月号でご紹介いたします。



巻頭特集

新型コロナウイルス感染症 5類感染症移行に伴う変化



皆さんにとって一番大きな変化は、
行動制限がなくなる点だと思いま
す。外出自粛等の要請にも強制力
がなくなり、感染対策は個人や事
業所の判断となりました。また、
検査も含めた医療費は公費ではな
くなり、季節性インフルエンザ等の
他の病気と同じように自己負担が
求められます。

ワクチン接種については引き続き
全額公費で実施されるため、令和
6年3月31日まで無料で接種可能
です。

Q

5類に移行すること
で、どのような点が変わ
ったのでしょうか？



ICT（感染対策チーム）

2

023年5月8日
に、新型コロナ

ウイルス感染症の位置づ
けが「新型インフルエン
ザ等感染症（2類相当）」か
ら「5類」へと変更にな
りました。

5類移行による変更点
や、かしま病院内での態
勢の変更など、ICT（感
染対策チーム）の皆さん
にお聞きしました。

Q

どのような態勢の変更
がありましたか？

面会

5類移行前の4月10日に、面会
禁止から「面会制限の緩和」をしま
した（次項「面会について」表参
照）。ご理解とご協力をお願いいた
します。

2
に続く

外来

これまでの発熱外来は、5類移行に伴い終了しました。発熱等かぜ症状がある方は、来院時に聴き取りをし、通常外来の患者さんと分けて対応しています。抗原検査等は、担当医師の判断で実施されます。

外来

入院

専用病棟を元の地域包括ケア病棟に戻しました。入院の必要な患者さんは、各病棟の個室で対応していくことになりました。

入院



Q

withコロナが本格的に始まりましたが、どのように付き合えばよいのでしょうか？

感染対策はこれからは個人や事業者の判断となりますが、基本的な感染対策の考え方は従来と変わりありません。

かしま病院では来院時のマスク着用をお願いしております。お互いが思いやりを持って行動しましょう。

面会について

2023年4月10日~

予約制になっておりますので、事前にご連絡ください。

面会できる方

- 面会証をお持ちの家族2人に限ります。
- 事前に担当医の許可がでている患者様に限ります。
- 面会証をお持ちの方でも下記の方は面会をお断りします。
※せき・発熱・下痢等の症状のある方、中学生までの方。

予約方法

- 電話で面会予約をしてください。
0246-58-8010（平日9時～17時 面会希望前日17時まで）
- 患者様お一人につき1週間に1回程度とします。
- 平日(月曜日から金曜日) 14時から17時までの15分間です。
- 土・日曜日・祝日・年末年始(12月30日～1月3日)の面会はお断りします。
- 次回の面会予約は面会終了後以降にお願いします。

面会方法

- 面会証を首からさげて病院にお入りください。
- 病院受付で面会受付書に記入しご提出ください。
- 面会場所は病棟でご案内します。
- 面会時に飲食はできません。
- マスクの着用と手指の消毒をお願いします。

なお、オンライン面会もご利用いただけます。
院内の感染リスクを減らすために、何卒ご理解とご協力をお願いします。

2020年 7月



福祉棟と外来棟の間にプレハブを設置。プライバシーに配慮しながら検査を行いました。

2020年 5月



事前にシミュレーションを行い、泊ドック室にてコロナ患者さん受入れを始めました。

2020年 4月



駐車場内にテントを立て、感染に注意しながらコロナ対応を開始しました。

写真で振り返る



かしま病院 コロナ対策の記録

感染拡大初期の2020年4月から、2021年12月までの、当院の対策の変遷や院内の様子をご紹介します。

2021年12月



夏の第5波では多くの患者さんを受入れ、当時の状況や第6波に向けた対策を取っていただきました。

2021年 3月



コロナワクチン接種の第一回目です。理事長の接種からスタートしました。

2021年 3月



コロナ専用病棟運用開始。ナースステーションはじめ、改修を行いました。

2021年 2月



西3病棟をコロナ専用病棟にする準備を開始。空気感染隔離ユニット「ミンティ」を設置しました。

5月12日は



看護の日

看護の心をみんなの心に

5月12日(金)

「看護の日のイベント」開催報告

当院では、看護の日にちなんだイベントを外来棟受付前にて9時～11時の間で開催いたしました。

多くの皆様にご参加いただきましてありがとうございました。

看護の日プログラム

- 体験コーナー 手洗い実践～正しく洗えているかな!??～
- 血圧についての映像視聴ブース、高血圧予防のパンフレット配布
- 介護保険について相談受付・パンフレットの配布

体験コーナー

手洗い実践～正しく洗えているかな!??～



手洗い方法を確認する専用ローションを手に塗り、手の汚れに見立て、手洗いをしてもらいました。看護師が、洗い残しが多い部分などを伝えながら正しい手洗いについてアドバイスしました。

映像視聴ブース

血圧についてのDVD



当院の看護師が編集した高血圧の危険性や改善策についての映像を流しました。映像の中では、片寄看護部長や中山文枝先生が高血圧予防の大切さも伝えていました。

相談



介護保険について相談を受け付け、パンフレットを配布しました。

呼吸器患者さんのむずむず脚症候群
かかりつけ医にも相談して下さい

Sさんは74歳の女性です。慢性的な呼吸器感染症があり、小暑に定期通院されていいます。時々、感染増悪で発熱したり、脱水症になったりして不安定です。そのたびに何度か入院をお勧めしましたが、最期まで妹さんと二人で暮らしていたいとのこと、外来治療を続けています。病弱で、いつ急変するか心配なので、訪問看護を開始しました。

ひんがら目(192)



ある外来診察日に、「脚が悪いので整形外科に紹介して欲しい」と言われました。理由を訊いてみると、「夜になると両脚が「つる」とのこと。それは整形外科の疾患ではないだろう」と思い、紹介状は書きませんでした。

しかし患者さんはどうしても整形外科にかかりたいと、訪問看護師さんに懇願されました。そうすると、こちらも無視するわけには参りません。「その病気が整形外科ではなく神経内科の病気のようにです。紹介す

る医師がかりつけ医であり、なんでもかかりつけ医に相談し、急を要しない症状については手を出しませんが必要な手当てについてはある程度専門外のことも手を出せるように扱える領域を広げる努力をする必要があります。かつての、大部屋の大学医局はそういう形で医師を養成していました。ところが最近では、自分の専門以外は見向きもしない医師が増えてきました。総合病院の医師ほどその傾向が顕著になっています。急性期医療は狭い範囲の専門家を増やし、患者さんの一生には思いを馳せません。これでは医療の目的がずれてゆきます。

(呼吸器科部長 山根喜男)

るなら神経内科です」と看護師さんに伝えました。本来なら神経内科に紹介状を書くべきでしょうが、当院の神経内科の先生は2週間に1回の非常勤の先生です。日程が調整しづらいので、いっそのこと、むずむず脚症候群の可能性が高いので、次回の小暑への受診日にその薬を処方することにしました。

幸い診断が当たったのか、内服して2日目には症状が消えたそうです。

患者さんによっては、呼吸器科の医師は呼吸器科の疾患だけを治療し、血圧は循環器科、糖尿病は糖尿病科の専門医、などと決めつけている方もいるようですが、可能な範囲で全身の治療を一人の主治医が診療し、治療が難渋するときにはより詳しい専門家に紹介相談する方針でいます。呼吸器疾患が重症になった時には、血圧の管理や血糖値のコントロールをいちいち専門家に頼んでいたのでは全人的に患者さんを診ることはできません。

ただし、呼吸器疾患がない患者さんの場合には、血圧や糖尿病の治療はその専門家に任せてもらう方が賢明です。つまり、自分にとって一番重要な病気を診てくれる医師がかりつけ医であり、なんでもかかりつけ医に相談し、急を要しない症状については手を出しませんが必要な手当てについてはある程度専門外のことも手を出せるように扱える領域を広げる努力をする必要があります。かつての、大部屋の大学医局はそういう形で医師を養成していました。ところが最近では、自分の専門以外は見向きもしない医師が増えてきました。総合病院の医師ほどその傾向が顕著になっています。急性期医療は狭い範囲の専門家を増やし、患者さんの一生には思いを馳せません。これでは医療の目的がずれてゆきます。

ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～



かしま病院に限ったことではありませんが、総合診療の専長として、あらかじめ自分の守備範囲を決めずに、置かれた状況下で、求められることにならなくてもやるということがあります。そういった行動を繰り返すことで、地域ニーズに対応する能力が日々鍛えられていきます。なんでもやると言っても、自分が診ることで患者さんに不利益が生じないように配慮して、必要な時には、適切な専門家を紹介します。

総合診療の醍醐味を堪能できるシーンは、自分がケア全体を包括的にコーディネートした方が、複数の他科専門医を受診するよりも効率的で有益と判断される時です。そういった場合には、他科専門医や多職種と連携しながら積極的に介入していきます。なぜなら、今は既に超高齢社会に突入していますので、どうしても、1人の患者さんが患って

第160回 いわきを救う総合診療

石井敦 病院長



いる疾患は多岐にわたることが多くなります。そうなりますと、従来の、疾患ごとに専門医を受診するスタイルでは、受診する診療科も多くなりますし、それぞれの診療科から同様の目的で重複した薬剤が処方されることも珍しくありません。そういった場合、1人の医師が、1人の患者さんを、まるごと、包括的に診ることができれば、とても有益性が高いのです。

総合診療は、医師不足、医師の高齢化が社会問題になっているいわき市が、危機を乗り越えるための決め手になると確信しています。このいわきの地で、超高齢社会に求められる効率的な医療を提供することができる総合診療を、多くの若手医師が学び実践できる環境を整備して、医師不足と医師の高齢化という問題を同時に解決するのが かしま病院の使命です。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する石井敦病院長は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第147回

シルバーリハビリ体操

皆さんは「シルバーリハビリ体操」をご存知でしょうか?

シルバーリハビリ体操とは、特別な道具を使わずに、いつでも、どこでも、一人でもできる介護予防のための体操です。この体操は、関節の動き

の維持・拡大や筋肉を伸ばすなどの効果があり、立つ、座る、歩くなど日常の動作の訓練にもなります。シルバーリハビリ体操は「立って行う体操」、「床に座って行う体操・寝て行う体操」、「椅子に座って行う体操」、「嚥下体操・失禁を予防する体操」など様々な種類、方法があります。

シルバーリハビリ体操は茨城県で始まり、全国に広がっている取り組みです。いわき市でも、住民参加型の介護予防事業として

平成21年度から行われています。いわき市では、各地の公民館や集会所などで市民ボランティアによるシルバーリハビリ体操教室が開催されています。参加してみたい方は、いわき市の地域包括ケア推進課や地区の社会福祉協議会にお問い合わせください。

市民ボランティアである「シルバーリハビリ体操指導士」として、体操の指導や、指導補助の活動をすることも可能です。指導士の認定を受けて活動するには、全10回、1カ月間の養成講座の受講が必須です。養成講座の募集はいわき市の広報誌やホームページなどに掲載されます。ご興味のある方はぜひご確認ください。

また、いわき市のホームページではシルバーリハビリ体操のパンフレットや体操の動画を公開しています。シルバーリハビリ体操について気になった方はぜひそちらも確認してみてください。

理学療法士 木村諒佑



いわき市のホームページに飛びます

かしま荘通信

例大祭

5月3日(水)



5/3、鹿島久保地区の例大祭が行われ、数年ぶりにかしま荘にお神輿が来荘しました。久しぶりのお神輿に、利用者様もお賽銭を準備し、楽しみにされておりました。養生会の安全と利用者様の健康長寿をご祈禱いただきました。

第14回 日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会 に参加しました

令和5年
5月12日(豊田市)、5月13日・14日(名古屋市)



総合診療科 藤原 学 先生

「家庭医の子育て体験が患者中心の医療の方法の実践に与える影響一質的研究」



いとちプロジェクト(広報企画室)
江坂 亮 室長

「いとちツアーの開催報告」

